

漂流テクスト

1 しりとり

しりとり りんごあめ めんたいこ コーンビーフ フレンチトースト トマト 豆腐チャンプルー ルートビア 赤貝 インドカレー レーズンバタ たこ コーヒ 冷やし中華 カルボナーラ ラザニア あぶらげ 鯨カツ つわぶき 飢餓 餓鬼 飢餓 がんもどき きくらげ 玄米 イクラ らっきょう うなぎの蒲焼 金目鯛 いか焼き きいちご 五目そば 馬刺し しめさば バレンタインのチョコ コロンバンのショートケーキ 飢餓 餓鬼 飢餓 餓鬼 飢餓 餓鬼 飢餓 餓鬼 飢餓 餓鬼 ……

2 漂流日誌

昼寝していたときだった 生き物の気配に目がさめた 白い鳥がとまっていた 手を伸ばすと簡単に脚がつかめた 羽ばたく鳥を手で絞め殺して羽をむしって 肉をひきちぎった 猛烈な悪臭がして味もひどかったけど 塩をふりかけて食べた あれは白い鳥だった

黒い鳥だった エディは羽をむしって皮をはいで血まみれになっていた 私はあまり食べたくなかったけれど エディに食べろ食べろなぜ食べないんだと言われて それで我慢して食べた あれはクチバシの黄色い 黒い鳥だった ほんとうにまずかった

プランクトンみたいに小さな蟹 親指の爪くらいの小さな蟹が泳いでいた 口に入れてみると殻が固くて苦かったが 食べられないこともない この小さな蟹を一日に二、三匹ずつ食べた

ノーノー 夢じゃない あなたは三十七日後にゼネラルサントスにいますでしょう と少女は言った ゼネラルサントス？ この島かも 名前さえも知らなかった 少女がここに存在している でも姿は見えず 声だけ聴こえる ノーノー 夢じゃない 頭がおかしくなったわけでもない 自分の気がふれてない ことくらいわかるさ

ブオーブオー。ジジジジ。ウヂュー。ウヂュー。ゝオッパイ揉んでネンネしな。ジャンプして射精するシャチとサメ。ブオーブオー。ジジジジ。ウヂュー、ウヂュー。いろんな音がして眠れない。

ウラセリクタメナウ 佐良浜の補陀落 ウラセリクタメナウ 積極的没落 人生を内側から腐蝕する青いしみ 荒れ騒ぐ無限 老いたる島よ 老いたる海よ 魂は悪戯好きの子供のままで 鹽（しお）焼くけぶり 草まくら 旅にしあれば 獨（ひと）りして 見るしるし無み わたつみの 手にまかしたる 玉だすき 星と風とに兆しあれかし

兆す、兆す、兆す。キサス、キサス、キサス。たぶん、たぶん、たぶん。いま、どこ？ いま、誰？ 間違いの喜劇はつづく。理由なき反抗。繊細さの原則。それは倫理でも文化でもなく、欲望である。うろたえた頭脳ではなく、身体そのものからの要求である。文字の痒み。字画の隅や線の皺から、紙の上に広がってゆく痒み。痒い痒い痒い。痒いという字を見ているだけで痒くなる。

何かを引き裂けばいい。眼の前をただ通り過ぎればいい。ふと現れる影のように。あるいはふと消え去る影のように。試みにそれを靈感と呼ぼう。眼の隅の針の跡のように書き込まれた、かすかなうごめき。プリマ・マテリア。発熱する大地のかげら。海原のしぶき。物質的恍惚。パリンプセスト。重ね書きされた羊皮紙のような、偶然の力。私の皮膚に絵画のようなしみを残す、網の目状の人生の汚れ。

ねえあんた。いい気分なの。あたしめっちゃジャグつてんの。ピペットして、パペットして、プリペアードしちゃってさ。それからあんたにぶん殴られて、黒いビロードの底に沈んじまうのさ。ねえあんた。あたしを殺した気分はどう？

まどろむマドロス。スージグワー。迷路みたいな路地の夕暮れ。酔いどれ船。洗濯船。よるべなさ。気晴らし。濡れた方眼紙が乾くまで。偶数。奇数。ロマネスコ。気むずかしさ。放埒さ。カノン。スポンジ。ふわふわ。かごめかごめの白日夢。八年たってもまだ覚めない。未来はあつというまに過去になる。アブク銭。銭とはみんなアブクである。財布の中の濡れたお札は猛烈に臭かった。パチンコしたい。マジジャンしたい。飛べ、わが友アホウドリ。

海亀の肉は美味しい。でも海亀を食べてはいけない。海亀があんたを助けられる。海亀を殺してはいけない。海亀を殺しちゃダメ。

狂える太陽。狂える月。恋の女神は大股開きの宝貝。フェニキアの水夫のように。琉球のウミンチュのように。パプア。ソロモン。ミクロネシア。白夜のように明るい常夜（とこよ）。焼酎のコーヒー割り。一瞬のゆめに永遠を知る。思いの毛遊び（モーアシビー）。面影は切ない。切ない。叫びは沈黙の中にある。生命は死の中にある。存在は無の中にある。そして私はあなたの中に。そしてあなたは私の中に。